

会報 第27号

2000.10.20

戦没船を記録する会

〒105-0014 東京都港区芝2-8-43 睦マンション206
Tel:03-3452-5085 FAX:03-3452-2711 郵便振替001606-719515

目次

- 「戦没した船と海員の資料館」完成・・・1-3
開会式典・展示物と保存される資料
- 第2回理事会開催・・・4-5
会活動の継続と「資料館」の維持を審議
- 戦争展への参加・・・6
(横浜・埼玉・静岡・焼津)
- 「商船もんでびでお丸の最後」私家版出版・・・7
- 戦没船員数調査一福井県・・・7
- 収支報告・事務局から・・・8

資料の永久保存へ

「戦没した船と海員の資料館」完成

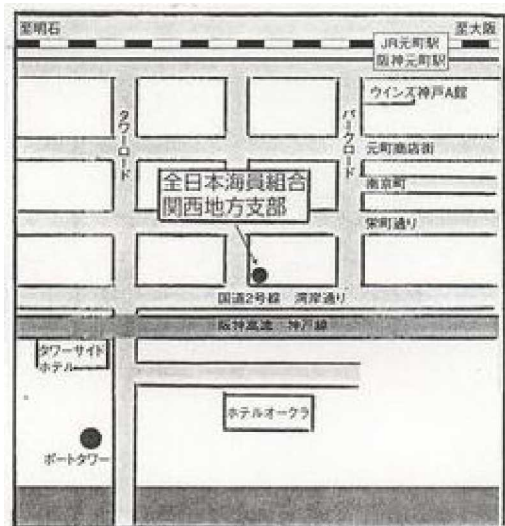
みんなの努力と、会員の支えと、そして会員組合の協力によって待望の戦没船戦没船員の資料を永久保存する「資料館」が完成した。
この「資料館」が、戦没した六万余の船員と犠牲になつた多くの人たちの霊を鎮め、そして、海の平和の発信基地として末長く後世に引き継がれていくことになる。



展示場入り口「海に墓標を」の銘題が掲げてある

資料館は、全日本海員組合の関西地方支部の2階ホールにある。会場は、165㎡のホールにコの字型の壁面が抱き合っている。

壁面には、戦没船1,197隻のアルフォト写真と写真の見つかっていない戦没船1,554隻の船銘板が展示されている。この他、年度区切りには説明文と年度別に戦況図を展示した。また、会場後方の資料室には戦没船員名簿をはじめ関係資料が保管されている。(内容の説明は3面に)



「資料館」の所在

全日本海員組合 関西地方支部 2階
〒650-0024 神戸市中央区海岸通3-1-6
TEL:078-331-7588 FAX:078-331-8578

海に墓標を

海員不戦の誓い

献辞

つつしんで6万余の海霊に捧げます。

あなた方は、過ぐる大戦において、輸送船に乗り組み、寒風肌を刺す北海から炎熱鉄をも溶かす赤道直下の南洋までの広大な海洋を舞台として、兵員、武器・弾薬その他の軍需民需物資の決死の輸送に、その身を挺して活躍されましたが、苛烈な武器なき戦いを強いられ、その尊い生命を蒼海深く沈め、ふたたび還ることはありませんでした。

そのこうべに冠もなく、その胸を飾る勲章もありません。

けれども、あなたがたのいさおしは、海の平和を守る礎として、燦として万世に光輝くでしょう。

墓標なき海深く眠るみ霊よ、私たちは、あなたがたの魂魄を鎮めようと、全日本海員組合の絶大な協力を得て、ここにあなたがたが生命をかけて守ろうとした船の在りし日の麗姿を展示し、海の恒久平和を願うよすがといたします。み霊よ、どうか、わたしたちの心からなる祈りに耳を傾けてください。

「安らかに眠れわが友よ、波静かなれ永久に」

2000年8月15日

戦没船を記録する会会長 川島 裕

献辞

あれから半世紀の歳月が流れた。

容赦のない雷撃と空爆に追われ傷つき焼かれ、機雷の海深く沈められた彼女たちのうめきと悲しみ、身もだえが今も伝わってくる。

中国との全面戦争から1945年8月の軍国日本の敗北まで、多くの船員と民間船舶が戦時動員され南方海域で日本沿岸・周辺海域で犠牲となった。「海に墓標を」は、絶対に記憶を風化させてはならないと叫ぶ船と人の無言の訴えである。

海外諸国との友好と協調によって生きる海洋国日本にとって、平和の海は絶対の生存条件であり、われわれ船員は再び海を戦場にしてはならないと決意する。これは21世紀日本の国民のいのちと暮らしを守る安全保障政策にとってのかなめである。

この度、「戦没船を記録する会」と全日本海員組合の共同により、鎮魂と不戦の誓いのあかしとして戦没船の記録「海に墓標を」を建立し、今を生きるものから後世へ、確かに伝える。

2000年8月15日

全日本海員組合組合長 中西昭士郎

鎮魂と「不戦の誓い」のあかしを後世へ

「戦没した船と海員の資料館」は、55回になる終戦記念日の8月15日、開館の日を迎えた。

午前11時、川島会長、中西海員組合長をはじめ本会関係者、海事関係者、兵庫県・神戸市の役所関係者など200名を超える参列者のなかで開館式典が行われた。式典では、保存資料目録が川島会長から中西組合長へ渡された後、中西組合長、川島会長が献辞を朗読した。川島会長は、戦禍により不運にも没した6万余の海霊にやさしく語りかけ、鎮魂と恒久平和を祈念する、と。

中西組合長は、「戦没船を記録する会」と共同により、鎮魂と不戦の誓いのあかしとして「海に墓標を」を建立して後世に伝える、と力強く述べた。

川島会長、中西組合長、新古関西地方支部長の3名によってテープカットが行われて参列者に展示場が公開された。大勢の報道関係者の取材も入り交じって、会場は混雑した。

引き続き、開設記念パーティが行われた。正午

献辞を朗読する川島会長



12時、中西組合長の呼びかけで戦没した6万余の海霊に黙祷を捧げた。

新古関西地方支部長の開会の挨拶に続いて、中西組合長、川島会長が挨拶し、各界代表が挨拶を行った。中西組合長は挨拶のなかで、「戦没船を記録する会」から引き受けた資料を永久保存し責任を持って管理していく、と述べた。

展示物と保存される資料の内容

戦没船のアルフォト写真

太平洋戦争で犠牲になった商船1,197隻のアルフォト写真が展示されている。

配列は年度別、月・日順にし、一枚一枚に会社名、トン数、沈没した年月日、場所、沈没原因、被害状況が記入されている。

また、写真が見つからない戦没船1,544隻は、船銘板とし、会社名以下写真と同様の説明文が入っている。

年度区切りに説明文

年度区切りに、解説文が配置されている。一読すると、1931年に日本軍が満州(中国東北地方)に進行し、太平洋戦争に繋がっていった歴史の実相が判る。また、「船員徴用令」や「戦時海運管理令」をはじめ、次々に発令された強権によって船員と船舶が動員されていった様子が判る。

太平洋戦争の戦況図

1942年度から各年毎に、1枚ずつ戦況図が展示されている。これは、海図式のもので南太平洋の全域と西はビルマ(現ミャンマー)、北はアリューシャンまでの広大な戦場が一目で判る。

日本軍が攻勢だったのは1枚名(42年)だけで、後は惨憺たる状況である。輸送船の被害が年毎に増大している。

戦没船員名簿

戦没船員60,331名の名簿は、資料室に保管されている。この名簿は、財団法人一戦没船員の碑建立会が1972年にまとめたものに、以後判明した部分を修正加筆したものである。

戦没者の範囲は、1937(昭12)年から1945(昭20)年8月15日までの間に(終戦処理業務に従事して殉職した人も含む)死亡した人たちである。

48都道府県と朝鮮、台湾、外国人、本籍不明の52に分類され、内容は、所属として(A船)陸軍徴用船、(B船)海軍徴用船、(BC船)陸軍配当船海軍指定船、(C船)その他に分類されている。戦没船員の氏名が、50音順に並び、一人一人の欄には生年月日、死亡年月日、死亡場所、船名、職名、本籍地、遺族名が記載されている。

その他の保存資料

都道府県別戦没者数表	-----	展示
攻撃を受ける日本商船(写真)8枚	-----	展示
戦没船カード	2,834件	
関係図書・文献	662冊	
関係資料(手記、私文書、証言、戦記など)	213件	

来館者のアンケートから

祖父の遺品を保管してください

昭和17年11月12日に沈んだ山下汽船の山浦丸船長の孫にあたるものです。

母は健在で78歳になりますが、今でもよく祖父の話をしします。

遺品なども有りますので、若し出来ましたら保存してもらえれば有り難いと思います。もちろん展示の是非はお任せ致します。

こういう資料館を作っていただいて、本当に感謝いたします。今度は母を連れて来たいと思います。

52歳 男性 神戸市

船友の顔を思い出す

多くの船友、戦友の顔を次々と思い出し、感無量です。思い出の船10隻ほどカメラに収めて帰りました。全日海に幸あれ、全日本船員の未来に栄光あれ。今生最後の思い出になりました。ありがとう。

77歳 男性 高槻市

父に始めて対面できた思い出です

私が生まれたのは、昭和19年1月3日ですが、この年の8月24日に戦死した父の歴史が親切な人のお陰で判りました。

まだ会ったことのない父に初めて対面できた思い出です。コピーを下さった人有り難うございました。

みなさんの努力に感謝します。

56歳 男性 京都府城陽市

仲間に加えていただきたい

大阪商船大烈丸にS19年末より船舶通信士として乗り組み、幸い生きのびました。

会の活動に今後とも期待しております。何らかの形でお仲間に加えていただくと大変嬉しいです。友人の乗船、戦死した摩耶山丸、顕正丸の写真のないのが残念でした。

72歳 男性 明石市

「戦没した船と海員の資料館」

駅からの道順

JR元町駅 南へ徒歩10分

阪神電車元町駅 南へ徒歩10分

阪神高速神戸線京橋出口より5分

開館時間

月曜～金曜 10時～17時

(土・日・祝祭日は休館)

資料館には、戦没船を記録する会関係者で資料館担当者が常駐しています。

質疑や調査など、何でも結構ですから申しつけてください。

会活動の継続と

「資料館」の維持を審議 — 第2回理事会 —

本年度第2回理事会は、10月14日友愛会館で開かれた。この理事会には会長・副会長をはじめ理事19名が出席した。

川島会長が議長に就任し、杉本事務局長から第7年度上半期の活動報告が行われた。

活動報告では、横浜、埼玉、静岡、焼津の4箇所ですべて「平和のための戦争展」に参加したこと。

「資料館」開設については、「対策委員会」を設置して全員で取り組んできた。8月15日には「戦没した船と海員の資料館」が開館になったが、皆様のご協力の賜物だと謝意を述べた。

開館後の状況については、神戸に残留して、「資料館」業務に従事している上沢理事から詳細な報告が行われた。

次いで、9月末までの会計収支報告を篠原常任理事が行った。

諸題の審議では「会の継続問題について」と「資料館」の維持運営については関連があるので同時に審議が行われた。

また、横浜「赤レンガ倉庫を平和博物館」への運動についても、実情報告ののち慎重な審議を行った。

提案された議題の内容

(1) 会の継続問題について

1、会活動の継続については、第4回総会(1997年)において一つの確認を行っているが、その後は、ひたすらに「永久保存」碑建立に取り組んできた。

本年4月に開催した第7回定時総会においても、会の存廃について2・3の意見が提出された。しかし、神戸の「資料館」開設に取り組んでいる最中であり、資料館開設後に理事会で慎重審議することになった。

2、情勢の変化があるとはいえ、これまでの議論をみる限り、一つの方向に統一することは困難であると思われる。

従って、当理事会において、忌憚のない意見を出していただき、それらの内容を全会員に周知して意志を問うことが必要と考える。(投票かアンケート方式かのいずれか)この結果をみて、次の総会で決定する。

(2) 「資料館」の維持運営について

「戦没した船と海員の資料館」は、遺族や関係者に参観していただくことをはじめ、一般の人、特に次代を担う若い人たちに観てもらふことが大事である。

従って、会の存廃にかかわらず、「資料館」の運営を支え、社会的に、その価値を定着させなければならない。そのために努力する。

1、「資料館を支える会」(仮称)などの形を造る。また、「管理、運営委員会」の常設を組合と協議する。

2、「資料館」の業務について

イ、「資料館」勤務者の身分の位置付け、(学芸員、解説員など)

ロ、解説マニュアル(受付ガイドなど)の作成

3、「戦争資料館ガイドブック」に収録してもらう。(平和博物館・戦争資料館ガイドブッカー歴史教育者協議会)

4、全国各地の各教育委員会への働きかけ

(以上の運動をすすめるについて、組合と充分協議して行う)

確認された事項

会の趣旨(会則)の範囲で会活動を継続する。

「資料館」と会との関係からも「管理・運営委員会」の常設が必要であり、組合と協議する。

「戦争資料館ガイドブック」への収録と全国各教育委員会などへの働きかけを行う。

横浜「赤レンガ倉庫を平和博物館」に対する運動からは後退する。ただし、他の問題では横浜のグループと連携していく。

活動報告

(1) 戦争展への参加

下記の各地区で開催された戦争展に参加した。これの実施については、担当者が数ヶ月前から行われる実行委員会に参加し、グループと検討を重ね、それぞれのテーマを設けて展示の内容を決めた。

また、展示場の設営や開会中の説明員には、それぞれの地区の本会々員をはじめ船員OB会の人たちから支援協力をいただいた。

- 1、「2000平和のための戦争展 in よこはま」
5/26～28 かながわ県民センター
担当者 = 吉田敏長、新藤博志
- 2、「2000平和のための埼玉の戦争展」
7/27～31 浦和「コルソ」
担当者 = 桑島直矢、栗原三郎
- 3、「第6回静岡 平和のための争展」
8/13～16 静岡市役所市民ギャラリー
担当者 = 小林三郎
- 4、「第1回焼津 平和のための戦争展」
8/16～18 焼津文化センター
担当者 = 山口喜治
- 5、「原爆と人間展」
10/2～6 横浜産貿開館

(2) 永久保存「戦没した船と海員の資料館」開設について

開設までの活動については、別紙「戦没した船と海員の資料館」開設までの経緯で詳細に述べた。

開館後、8月16～18日の3日間は開館記念特別展を行った。

8月21日以後の「資料館」の業務については、上沢氏が残留して勤務している。

また、交代制で溝邊、土井、宮田の3氏が出勤している。

なお、9月21日から毎週木曜日には、神戸海寿会から一人が出勤することになった。

「資料館」の日常における業務については、新古支部長、藤丸氏、上沢氏、土井氏の4名で定期的に協議している。

(3) 横浜「赤レンガ倉庫を平和博物館」にする運動について

主な意見（発言）

資料館の開設も出来たし、総会での確認（目的達成で解消）も有るし、悩んでいる。

できれば首都圏（横浜）にも資料館など永久保存の場所を確保したい、と思ってきた。

会の目的（戦没船の記念碑を建立する）も達成されたので、会を発展的に解消し、目的を変えて平和運動などに取り組みないか。

会の目的を変えて、活動を継続することには反対だ。

資料館が出来て、会の目的（これからの）と資料館の維持運営との関係が明確でない。

本当に役目が終わったのであれば止めてもよい。継続するのなら、どういう方向でいくのか。従来どおり関係団体と強調して活動をつづける。また、京浜地区にも資料館を造る、など。

神戸に資料館があっても、ローカルの問題で全国的な盛り上がりになっていない。やはり、京浜に一つ必要ではないか。

資料館の運営を支援して、社会的に存在価値を定着させることが大事だ。

京浜地区に、もう一つと言っても、会にそれだけの余力があるかどうか。日本の中に一つ（神戸）に立派な資料館があることでよいと思う。

資料館（保存資料）の所有権はどこにあるのか。組合は運営について、「記録する会の協力を得ていく」と言っているが、関係をはっきりしないと問題がおきる。

所有権は明らかに海員組合にある。今後の関係を維持していくために、常設の「管理・運営委員会」の設置が必要。

海員組合に譲渡したのだから、運営は支部長に任せている、ということには反論できない。

管理運営について、こちらで案をつくり、交渉する他ない。

会の継続問題では、従来の目的・方針で行くということかどうか。また、組合に我々の意見をどうして反映していくか。

戦争展への参加

横浜、埼玉、静岡、焼津

2000 平和のための戦争展 in よこはま

5 / 26 ~ 28、かながわ県民センターにて行われた。本年のテーマは、国連「平和の文化国際年」にちなんで「戦争と平和と文化」であった。

本会から吉田敏長さん、新藤博志さんが担当し豪華客船が航空母艦などに改装され、戦争に参加して犠牲になった記録を、写真や解説で行った。

会期中、政治団体の街宣車などによる妨害工作があったが、3日間の会期を成功のうちに完了した。

なお、参観者は2000名であった。

静岡平和のための戦争展

「戦争の世紀」から「平和の世紀」へをテーマにして、8 / 13 ~ 16 に静岡市役所市民ギャラリーで開催された。

「郷土燃ゆ」のコーナーでは県内の空襲被害が展示され、「沖縄はいま何を訴えているか」では、太平洋戦争の激戦地で、戦後も広大な米軍基地が残る沖縄の現在を紹介していた。

戦没船では、太平洋戦争の苛酷な戦況図と、そのなかで船員と船が動員されていった様子を、写真や解説図で展示した。担当は小林三郎さん。

第1回 焼津・平和のための戦争展

焼津では、初めての戦争展 8 / 16 ~ 18 に焼津市文化センターで開かれた。

山口喜春さんの担当で参加したが、本会には漁船関係の資料が乏しいのが悔やまれた。

太平洋戦争では、徴用された漁船は「一般徴用船」と「特殊艦船」に分けられ、「特殊艦船」は米軍の艦船、飛行機の監視などに当たったという。

焼津だけでも、1937年から45年の間に95隻の漁船が徴用され、このうち61隻が沈没して332名が犠牲になった。

この他、ピキニ水爆実験で被災した第5福竜丸の関係資料も展示された。

戦争の世紀から平和の世紀へ

「埼玉の戦争展」

桑島 直矢

毎年8月15日前後には日本各地で戦争展が開催されている。埼玉の戦争展は地の利を得た浦和駅前の商

埼玉の戦争展会場



業ビル「コロソ」という会場で7月27日から31日までの5日間開催された。

当会が出展するのは、昨年が続いて2回になる。昨年あたりから、「再び日本が戦争の道を歩むのでは」と危惧する声内外にあがっている。

海員組合は、第二次世界大戦と、その後3回の戦争に係りを持った船員のユニオンである。私たちOBも次の世代に55年前の歴史を語り継がなければ。

「戦争で犠牲になった船と船乗りたち」

埼玉戦争展は、「戦没船を記録する会」のみの展示と違い、米軍基地、戦争遺跡を保存する運動、20世紀の戦争への道、原爆コーナー等々「戦争の世紀」から「平和の世紀」がテーマの戦争展であった。

その会場の特別コーナーを戦没船の展示場所として8Mの長さを借りて、徴用されて航空母艦に改装された客船、トラック環礁の多数の沈船の説明図、また、太平洋上における戦争の経過図、攻撃を受ける商船の写真、戦没船のアルフォト写真を埼玉県在住の会員が協力して展示した。

開催前に近くの会員にも会より案内状を郵送し、会員にも広く観てもらおうよう準備した。

開催日7月27日には県知事が来場、学生、一般の方々約6千人が来場された。

戦没船のコーナーには、父親が乗船、戦死した船を捜しに来ました。海の無い県でも船乗りの家族が多く詰めかけた。

また、中学・高校生からは「兵隊でもない船乗りがどう戦争にかかわったのですか」などの質問があった。若い世代は、やはり平和の世紀を願っているようだ。

最終日、当会の大切な写真、資料などを片付けて5日間の埼玉展は終わった。会期中会員諸兄のご協力で深く感謝します。

なお、5日間の入場者は約3万人でした。

「商船もんでびでお丸の最後」
亡父を偲んで本を出版

皆さまにはお変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。平素は会報のご送付を賜り、有り難うございます。

さてこのたび、少々お願いしたい件がありまして、お手紙を差し上げる次第でございます。

私の兄の笠原嘉が亡父計一(もんでびでお丸船長、昭和17年戦没)の供養に「商船もんでびでお丸の最後」と題して、亡父の日記をもととして私家版を出す準備を進めております。

名古屋の中日新聞出版社でそういう小冊子を引き受けてくれた由にて、小生も手伝って校正中でございます。

つきましては、貴会報15号(1997年9月10日)に掲載の南洋群島の島名が入った珍しいものの転載をお許しいただきたく存じます。

何卒よろしくご配慮の程をお願い上げます。

私ども兄弟も高齢となつてまいりまして、亡父に何もしてあげられないとの思いから、このたびの出版を思い立ちました。

約300部の予定で市販するものではございません。完成の暁には一部を送らせていただきたく、ご笑覧願えれば望外の幸せでございます。

末筆ながら皆さまの益々のご清栄をお祈り上げます。

敬具

戦没船員調査 = 福井県

出身地	A	B	BC	C	合計
三方郡	10	5	5	0	20
南条郡	18	9	13	0	40
丹生郡	74	25	31	2	132
敦賀市	37	12	23	4	76
敦賀郡	0	2	2	1	5
坂井郡	96	77	92	4	269
吉田郡	10	8	5	0	23
福井市	18	5	17	1	41
大飯郡	24	3	1	0	28
今立郡	18	10	15	1	44
大野郡	18	8	12	1	39
遠敷郡	41	12	17	2	72
足羽郡	7	2	2	2	13
吉野郡	1	0	0	0	1
幡条郡	1	0	0	0	1
武生郡	0	3	0	0	3
東条郡	0	1	0	0	1
小浜市	0	1	0	0	1
不明	3	1	0	0	4
合計	376	184	235	18	813

戦没船員名簿不明欄調査

不明項目	A	B	BC	C	合計
生年月日	87	56	1	0	144
没年月	1	0	2	0	3
死亡場所	14	3	0	0	17
船名	160	2	0	0	162
職名	28	51	1	0	80
本籍地	3	1	0	0	4
遺族名	28	6	7	0	41

A = 陸軍徴用、 B = 海軍徴用、
BC = 陸軍配当・海軍指定、 C = その他

朝日歌壇より

骨色の海に吾一人漂えり戦争はいまも夢の中に続く
 (東京都) 太田 良作
 貝殻を耳にあてれば船沈み海にて歌いし軍歌
 きこゆる
 (新潟市) 佐藤 文夫
 かかる夢を君も見ているか船沈み海にて君と
 うたいし軍歌
 (新潟市) 佐藤 文夫
 「無言館」に声なき声の充滿すどの絵たりとも
 死んでなどいず
 (相模原市) 吉田 方子
 死に向かう寂しさに吹けるハローモ二カ機影に
 聴きし、荒城の月」
 (中村市) 中村 宣暢

【事務局から】

今年は特別暑かったですね。
皆さん、変わりありませんか？

会設立の目的でありました戦没船と戦没船員の資料を永久保存し、鎮魂と恒久平和を祈念する資料館がようやく完成しました。

55回目の終戦記念日の8月15日に開館式典を行い、一般公開されています。

式典には200名を超す関係者の参列がありましたが、本会会員々員も38名が参加しました。

資料館開館には、皆さんのたゆまぬ取り組みと、会員各位の支えがあったからだと思っています。敬意と深い謝意を表します。

これからご遺族や関係者の方たちに参観していただきたいことと、一般の人達、特に学生をはじめ若い人たちに観てもらいたいと思います。

一応、常設の資料館ですから、社会的にも価値付けられたものにしていく努力をしていきたい、と思っています。

毎年、地方の2～3ヶ所でパネル展を実施してきましたが、今年は資料館開設に集中的に取り組んだために出来ませんでした。

近距離で開催されている戦争展に参加しました。担当した人は数ヶ月前から実行委員会に出席し、グループと検討を重ねて取り組みました。ご苦労さまでした。

10月14日に理事会を開きました。懸案になっていた会の継続をどうするか、という重要な議案の審議をしました。

3年前の総会で、向こう3年ぐらいの間に会の目的である資料の永久保存を達成しよう、という確認があったことによります。

この確認は、みんなが高齢であり、いつまでも続かないという配慮からでした。

理事会では、真剣で熱心な議論がありました。結論は会の趣旨（会則）の範囲で当分の間活動を継続する、ということになりました。

この結論は、神戸の「資料館」の維持運営とからんで、折角開館した資料館を定着させたいという心情が含まれています。

皆さんからも率直で忌憚のない意見を承りたいと思います。

寒くなります、お体を大事にして下さい。（杉）

半世紀も過ぎて、ようやく事実が

本日（21日）早速に、兄有馬忠義の事でご返事を頂きまして、唯有り難く感謝あるのみです。

半世紀以上もたちますのに、詳しく調べて頂きまして、船名もわかりまして、総てはつきり致しました。香川県におります息子にコピー送ります。

忠義さんの妻も早くに亡くなり、一人息子にはどうしようも出来なかったのです。父の顔も知らず戦死の半年後に生まれましたので、真実を知り喜びもひとしおと思います。

朝日新聞の記事のお陰です。丁度お盆、人生を感じます。書類をコピーして香川におります彼の兄妹弟たちに送ります。丁度会場におります時に、関西テレビの取材で私たちにマイクを向けられましたが、益見は胸一杯で何も言えませず、私（妻）がいろいろ聞かされていた事を話しました。

戦争はもうありません。平和でありますように祈ります。
神戸市 有馬 益見内

訂正とお詫び

会報26号に、総会で選出された新役員の名簿を掲載しましたが、豊田理事の氏名が欠落していました。改めてお詫び致します。

理事 豊田 健造 船員OB

累計収支報告書

基本会計 2000年9月末日現在

科目	入会金	繰越残高
前年度繰越	150,000	
入会金		
合計	150,000	150,000
一般会計		
科目	収入	支出
会費	3,768,000	
賛助会費	1,436,000	
寄付金	2,900,497	
事業収入	2,164,547	
雑収入	557,508	
通信費		1,135,197
会議費		223,772
印刷費		1,181,764
事業費		5,071,324
旅費交通費		556,775
事務所費		1,560,000
消耗品・雑費		659,093
次月に繰越		438,627
合計	10,826,552	10,826,552